

謹 啓

皆様のご支援とご協力を得て、進めてまいりました
第11回関西建築家大賞が、この程その審査を終了し、
大賞受賞者が決定いたしましたので別紙の通り発表
いたします。

2011年10月11日

社団法人 日本建築家協会近畿支部
支 部 長 小 島 孜
建築賞分科会
分 科 会 長 吉 村 篤 一

発 表

第11回関西建築家大賞受賞者

矢田 朝士（やだ あさし）

ATELIER-ASH（京都市北区小山北大野町7番地）

日本建築家協会（JIA）正会員 1967年生れ

審査に提出された作品

「ES house-01」

用途	構造	延床面積	所在地	竣工年
一戸建て住宅 （農家住宅）	RC造+鉄骨造 +木造	164.57 m ²	奈良県磯城郡	2005年

「ES house-02」

用途	構造	延床面積	所在地	竣工年
一戸建て住宅 （事務所付）	RC造+木造	185.97 m ²	大阪市平野区	2009年

審査経過の概要

- ・JIA 近畿支部による関西建築家大賞は近畿支部地域で活躍するJIA 建築家に対し、そのすぐれた建築活動を顕彰する目的で発足した。今回はその第11回目であり、2011年3月に募集を開始した。（2011年5月27日締切）
- ・今回の募集は、近畿支部地域内に 2001年1月1日～2010年12月末日迄の10年間に建てられた建築2点の建築活動を行った建築家1名に対して与えられるものである。
（別紙応募要項参照）
- ・受賞者にはJIA 近畿支部から賞状、賞牌（陶芸家・鯉江良二氏作 陶製椀）及び副賞として100,000円が贈られる。準ずる賞「審査建築家奨励賞」の場合は賞状のみが贈られる。
- ・審査員は1人の建築家である。今回は 香山壽夫氏が審査を行った。
- ・募集締切の5月27日までに16人の応募があり分科会の書類点検を経て、書類審査（図面・写真による審査）及び現地審査を行った。
- ・審査は順調に行なわれ、10月11日、香山審査建築家から審査経過及び講評が提出された。

発表及び表彰

- ・建築賞分科会は10月11日付をもって報道関係（新聞、雑誌等）への発表を行う。
- ・受賞者 矢田朝士氏に対する表彰は、表彰&対談（鼎談）記念イベント（仮称、2011年12月頃開催予定）において行う。

建築賞分科会は次のメンバーで構成された。

支部長 小島 孜（アーキコロボ小島研究室）

分科会長 吉村篤一（建築環境研究所）

委員 江副敏史（日建設計）

遠藤秀平（遠藤秀平建築研究所）

木原千利（木原千利設計工房）

木村博昭（京都工芸繊維大学）

坂本 昭（坂本昭・設計工房CASA）

竹原義二（無有建築工房）

森崎輝行（森崎建築設計事務所）

山本光良（昭和設計）

第11回 関西建築家大賞
受賞者の選定について

審査建築家 香山壽夫

選定結果

第11回関西建築家大賞受賞者として
矢田朝士(やだ あさし)氏を選定いたします。

選定経過

今回の関西建築家大賞には16名の建築家の応募がありました。それぞれの建築家が提出されたふたつの作品、計32作品について、6月27日、函面および写真による第一次の審査を綿業会館(大阪市中央区)において行いました。その結果現地の審査対象として選ばれたのは、次の5名の建築家の作品であります。

久保清一(くぼ せいいち) 永元寺 蕪坐離庵
南市岡の家

高砂正弘(たかさご まさひろ) 壁層の家
中谷町の農家

徳岡昌克(とくおか まさかつ) 今津町立図書館
夜久野ふれあいプラザ

長坂 大(ながさか だい) 宇治のアトリエ
淡路島の家

矢田朝士(やだ あさし) ES house - 01
ES house - 02

以上5名それぞれの2作品、計10作品について、8月22日、23日の2日間、現地における審査を行い、上記の受賞者の選定に至りました。

選定理由

関西建築家大賞の、建築賞としての特色は、建築家が自ら選んだふたつの作品を通して表明されているその建築家の設計理念を評価する点にあります。審査員として、そのことに関わることは、誠に刺激的で又与えられるところの大きいものでした。

しかし、一言で建築の理念と言っても、それは思想・姿勢といった抽象的なものから、造形手法といった具体的なものまで、巾広く展開されているものです。今回の審査にあたって、私は、評価の視点をひとつに固定するのではなく、それぞれの建築家の行っていることを虚心に見せていただき、そしてその結果、心が最も強く動かされたものを選ぶことにいたしました。しかし、見て、理解することは楽しいことでしたが、違った理念・方法を比べてそこからひとつを選ぶことは、誠に困難で苦しい作業でした。最後まで、悩みはありましたが、決断しないわけにはいきません。その決断の理由を次に記します。

矢田氏のふたつの作品は、住宅をつくり出す、本質的で、かつ普遍的な設計方法を提示しています。方法概念として鋭い作品は、時に、造形的表現として貧しかったり、あるいは生活との実際的な対応において弱かったりすることが多く見受けられますが、この作品は全くそうではなく、敷地の条件に見事に対応し、住む人の生活を讃美するものとなっています。陽光は輝きに満ちて差し入り、雨は優しく降り込み、中に住む人の表情は喜びに満ちていることに、私は心を打たれました。

一方、このふたつの住宅が、特別な条件の中での特殊解である、あるいは未だ熟さぬ生硬なものである、という評価もできるかもしれません。すなわち、このふたつの住宅は、たまたま共通に、周辺環境条件において、閉鎖・防御性を求められる一方で、地域共同体としての強い親和性が存在するという、特殊な条件における成功ではなかったか、という疑問です。又もうひとつ、内と外の“Shell”のかたちは、共に文字通り「固い矩形の箱」となっているが、それはもっと多様なかたちと開放 閉鎖の度合いをもって成立するものではないか、という疑問です。この私の中での疑問に私は最後まで苦しみました。しかし、私は最終的に、差し込む光を、通り抜ける風と、住む人の笑顔に軍配を上げました。建築空間は、いかなる場合においても、本質的に、周辺から自己を切り出し困いこむことにおいて出発するもので、それに続いて内部を自己の延長として確立する過程で、その空間は外に向かって開かれるものである。したがって建築空間は、常に二重の困いとして成立している。この建築の根本概念を、矢田氏のふたつの住宅は、鮮烈なかたちで見せており、その方法はこれから多様な展開を必ずや実現していくものと確信できたからです。

高砂氏のふたつの住宅は、私を深く魅了し、最後まで私の心から離れませんでした。作品の完成度、すなわち形態の適格さ、素材の選択・組み合わせの洗練、そし

てなによりも、住む人に注がれている溢れるような暖かい眼差し…。

いずれにおいても、氏の作品は傑出していました。評価の観点をそこにおくことにしていたら、悩むこともなく、私は高砂氏を選んでいたことでしょう。

久保氏、長坂氏の作品も、いずれも卓越した力を持ったもので、私は大きな感銘を与られました。この賞が、通常の建築賞のように、単独の作品に与えられるものであったなら、おふたりのいずれかが選ばれていたかもしれません。しかし、おふたりのそれぞれのふたつの作品から、ひとつの像をつかみ出そうとした時、私にはそれを鮮明なものとするできませんでした。

長坂氏について言えば、「宇治のアトリエ」は、建築空間から始まり、その力は周辺・遠景に及んで、完璧な「全体」をつくり上げていますが、「淡路島の家」は、改造した空間の個性的な魅力が大きいだけ、それが立地している尾根の地形にどう働きかけていくのか、未だ私には見えなかったのです。

久保氏の「永元寺 蕪坐離庵」も、建築空間の魅力が卓越したものであるだけに、都市的な、あるいは地形的な、周辺との関係が不安定で、その点は「南市岡の家」が示している確固とした都市的構えと別ものに見えたのです。

徳岡氏の作品については、いずれにおいても、その地域の風土、伝統に対する深い愛情に支えられた設計姿勢に胸を打たれ、敬服いたしました。しかし、地域の公共建築を、権威的なものであるよりは、親しみ易く、日常的な空間としていこうとする今日的な要請からするならば、素材の選択や細部の造形で発揮された繊細で行き届いた工夫が、空間のスケールや、複合のさせ方においても発揮されていたならば、この設計者の特質はより鮮明なものとなっていたに違いないと感じざるを得ませんでした。

以上、5名の建築家の優れたお仕事に敬意と謝意を表しつつ、選定の理由を述べさせていただきました。

第11回「関西建築家大賞」募集

趣旨

(社)日本建築家協会(JIA)の会員建築家は、その業務において歴史的な文化を継承し、自然環境をまもり、安全で快適な環境をつくり、人々の共感と理解に支えられつつ、人間の幸福と社会文化の形成に寄与すべく日々努力しております。

この建築家の職能をよりいっそう明確なものとするために JIA 近畿支部では近畿支部地域で活躍する建築家に対し、そのすぐれた建築活動を顕彰する関西建築家大賞の制度を設置しております。

本賞は、上記の JIA の理想にもとづき、しかも長期にわたって機能的造形的デザインの力量を実現した建築設計の実績、すなわち過去 10 年間に実現もしくは提示された 2 つの作品を対象とし、唯一人の審査建築家の価値観によって一人の建築家を選考するものです。

1991年に発足したこの大賞の第1回から第10回までの審査建築家と大賞受賞者は次の方々です。

第1回 審査建築家 川崎 清氏 受賞者 出江 寛氏	第6回 審査建築家 阪田誠造氏 受賞者 坂本 昭氏
第2回 審査建築家 高橋誠一氏 受賞者 木原千利氏	第7回 審査建築家 林 昌二氏 受賞者 高口恭行氏
第3回 審査建築家 内井昭蔵氏 受賞者 坂 茂氏	第8回 審査建築家 穂積信夫氏 受賞者 木村博昭氏
第4回 審査建築家 東 孝光氏 受賞者 竹原義二氏	第9回 審査建築家 出江 寛氏 受賞者 江副敏史氏
第5回 審査建築家 原 広司氏 受賞者 遠藤秀平氏	第10回 審査建築家 坂本一成氏 審査建築家奨励賞 森下 修氏

今回の審査建築家は 香山壽夫氏 です。

【応募要項】

資格 JIA 正会員であること。但し、非会員の方が応募しようとする場合は応募締切日の 5 月 27 日までに JIA 正会員資格を取得していること。(JIA 正会員資格を得るには、以下の手続きが必要です。所属支部へ入会申込書の提出、理事会での入会承認、入会金・年会費の払込 手続きには約 1~2 ヶ月かかりますので必ず事前に事務局までお問合せ下さい。)また、過去に本大賞受賞者の方は応募不可とします。

作品 2点。近畿支部地域内に完成した建物。前回応募作品も可。
2001年1月1日~2010年12月末日迄の作品とする。(完成日は検査済証の日付とします)
近畿支部地域内とは、滋賀県、京都府、奈良県、和歌山県、大阪府、兵庫県をいう。

日程
・応募期間 2011年3月14日~5月27日
・書類審査 " 6月 ・現地審査 2011年7月~9月中旬
・受賞者発表 " 9月下旬 ・表彰式(予定) " 10月頃

登録費 10,000円(必ず応募締切日の5月27日までに振込頂くか、近畿支部事務局まで直接ご持参下さい。)

応募方法 応募を希望される方は、事前に応募申込書をお送り頂き(E-Mail または FAX)、下記提出図書を各作品毎にまとめて近畿支部事務局までご提出下さい。(下記提出図書、は指定用紙となりますので、専用ホームページよりダウンロードして頂くか、応募資料請求用紙(裏面)にてご請求頂ければお送り致します。)

【提出図書類】

応募申込書 (E-Mail または FAX にて事前に事務局までお送り下さい。)

図面：配置図、平面図、立面図、断面図、主要矩計図。A2版図面(見開き)に製本。クリアファイルも可
(1)写真データ5~10点(JPEGデータで解像度300dpi、長辺1200pixel程度のをCD-Rに保存のうえ提出下さい)

(2)写真5枚~10枚カット(A4のクリアファイルにおさめる) (1)(2)は内容の異なる物でも可

建築概要：発注者、施工者、構造、用途、階数、高さ、面積

設計趣旨：800字程度

確認(計画)通知書 及び 検査済証の写し

確認申請不要物件の場合は不要理由を明記したものをご提出下さい。

、は指定用紙に記入のこと。(専用ホームページよりダウンロード可能 <http://www.jia.or.jp/kinki>)

以上の提出図書類を【各作品】毎に収めて2011年5月27日必着でお送り下さい。

封筒、図面、写真、にそれぞれ氏名・作品名を明記

作品を持参の場合は9:30~18:00の時間内(土日祝日は除く)、郵送の場合は当日消印有効とします。

応募提出図書類は2011年11月以降に返却致します。また提出図書類作成・送料に要した費用は応募者負担とします。

付記 応募作品や図面・写真等に関する著作権、特許等は応募者もしくは権利保有者に帰属します。ただし、作品発表に関する権利、及び発表に際して作成する制作物の著作権は主催者に帰属するものとします。

【審査建築家 及び 表彰】

審査建築家 香山 壽夫 氏(こうやま ひさお)

表彰 大賞 1名。該当者がいない場合は、これに準ずる表彰を行うことがある。

審査結果は、近畿支部会報誌、新聞及び雑誌等に公表する。表彰関連イベントは未定。

賞 賞状、賞牌(陶芸家・鯉江良二氏作品)、副賞 100,000 円

付 記 受賞者は、JIA 近畿支部が関係資料を掲載、展示など、啓発の目的に使用する場合は無償で貸与すること。

香山 壽夫氏(審査建築家)プロフィール

略 歴

1937 年	東京生まれ
1960 年	東京大学工学部建築学科卒業
1965 年	ペンシルヴェニア大学美術学部大学院修了(M.Arch)
1971 年	東京大学工学部助教授
1982 年	ペンシルヴェニア大学客員教授
1986 年～97 年	東京大学工学部教授
1997 年～2007 年	明治大学理工学部教授、放送大学教授
現 在	香山壽夫建築研究所代表、聖学院大学教授

受 賞

日本芸術院賞(2006年聖学院大学礼拝堂・講堂)、日本建築学会賞作品賞(1996年彩の国さいたま芸術劇場)、村野藤吾建築賞(1995年彩の国さいたま芸術劇場)、建築学会建築選奨(1996年関川村歴史資料館他)、建築業協会賞(2007年野々市町役場新庁舎、長久手町文化の家、日田市民文化会館他)、アメリカ劇場技術協会(USITT)賞(1996)、公共建築賞(1996年味方村曾我・平沢記念館、1992年塩沢町今泉博物館他)

お問合せ・提出先 社団法人 日本建築家協会近畿支部
建築賞分科会(事務局)
〒541-0051 大阪市中央区備後町 2-5-8(綿業会館)
TEL06-6229-3371 E-Mail jia@bc.wakwak.com

振込先(登録費)
三菱東京UFJ銀行 大阪営業部
普通預金 1147965
(社)日本建築家協会近畿支部

きりとりせん

第 11 回関西建築家大賞 応募関係資料請求用紙

(FAX返信 06-6229-3374)

フリガナ 応募者氏名	
勤務先	
連絡先	〒 TEL _____ FAX _____ E-Mail _____
種別 何れかに を	JIA 正会員です JIA に入会していません (入会資料送付を希望します)

応募関係資料は専用ホームページ(<http://www.jia.or.jp/kinki>)よりダウンロードすることも可能です。